



Junior Drive
Shiraishi Racing School

REPORT

報告書

7月1日（水）岡山フォーミュラトレーニング

7月15日（水）舞洲フォーミュラトレーニング

7 2026
July





30℃

Track
OKAYAMA

Driver
Yushi kitamura

終始ウェットコンディション

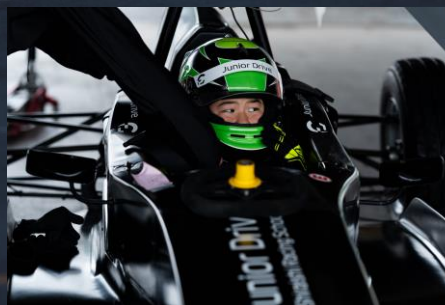
4期生の北村有志（14）がトレーニングに参加しました。この日は午後から雨予報となっており、北村にとっては4月以来となる久しぶりのフォーミュラトレーニングとなりました。

13時からの走行開始直前に雨が降り始め、路面はウェットコンディションへと変化。新品のレインタイヤを装着してコースインしました。当初は路面が濡れているものの水量は少なく、ウェットタイヤではオーバーヒートしやすい難しいコンディションでした。そのような状況の中、北村は路面上の水が残るラインを選びながらタイヤの温度管理を意識し、着実に周回を重ねて走行マイルージを積み重ねていきました。

2セッション目が始まる頃には雨脚が強まり、コースは完全なフルウェットコンディションとなりました。30分間のセッションでは滑りやすい路面にも冷静に対応し、大きなミスなく周回を重ねます。安定した走りでは評価できるラップタイムを記録しました。走行終了後にはオンボード映像とデータロガーを確認し、一部コーナーの走行ラインや操作を見直すことで、最終セッションへ向けた改善点を整理しました。

最後の3セッション目は1時間の走行です。雨はさらに強まり、コース上の水量も増加し、本格的なウェット走行を学ぶには最適なコンディションとなりました。課題としていたコーナーでは2パターンのラインと操作を試し、それぞれの違いを確認しながら走行を続けました。一度ピットインして給油を行った後、再びコースへ復帰。しかし、セッション終盤には豪雨となり、視界や路面状況の悪化から走行継続は危険と判断し、予定より早くピットイン。この日のプログラムを終了しました。

久しぶりのフォーミュラドライブに加え、一日を通して変化するウェットコンディションを経験した北村。難しい路面状況の中でも着実に走行距離を重ね、ウェット走行におけるマシンコントロールやタイヤマネジメントなど、多くの収穫を得る一日となりました。





35°C

Track
MAISHIMA

Driver
Toyoda/Sawa/Wada/Ishikawa

猛暑の中、初ドライ走行

5期生の豊田翔太郎（15）と6期生の和田光ノ介（14）、石川大翔（13）、澤恒太郎（12）の4名がトレーニングに参加しました。この日の天候は1日を通して晴れ予報となり、厳しい暑さとなりました。

朝の脱出訓練を終え、走行メニューへ移ります。まずはシフト操作とブレーキングの習得を目的に、直線区間を往復しながら基礎トレーニングを繰り返しました。この日は気温35°Cの猛暑日となったため、マシンの熱対策としてドライバー交代前にクールラップを挟み、マシンを冷却してからピットへ戻す運用としました。午前中は4名のドライバーが交代で乗り込み、これを10分×2セット実施しました。

昼休憩を挟み、午後からは決められたコースを走行するサーキットトレーニングへ移ります。前回ウェットコンディションだったため、全員が初めてドライコンディションでコースを走行しました。まずは豊田が走行を開始。非常にスムーズな走りで見せました。続いて和田が乗り込みます。午前中に習得したシフトダウンとブレーキングを活かし、まずまずの走りを見せました。3人目は石川がドライブ。4名の中では最も苦戦していましたが、前回できなかった発進の成功率が上がり、少しずつ成長を見せています。最後は澤がコースを走行。スムーズなコーナリングを見せた一方で、シフトミスがやや多く、次回に向けた課題も見つかりました。

続いて、マシンにデータロガーを装着し、初めてドライコンディションでのラップタイムを計測しました。それぞれ10分間走行し、収集したデータを走行後に確認しながら走りを取り返ります。最後に講師が比較用データの収集を目的に走行。その後、ロガーデータを比較し、それぞれの課題を洗い出しました。最後の5分間アタックでは、見つかった課題の修正に取り組みました。豊田はラップタイムこそ更新できませんでしたが、部分的な改善が見られました。和田もタイムアップには至りませんでしたが、修正点を理解しながら積極的にトライしていました。石川は4名の中で唯一ラップタイムを更新。澤はアグレッシブな走りで行ったアタックでしたが、1周をまとめ切ることはできませんでした。



DRIVERS PERFORMANCE

Yushi - KITAMURA (14) Okayama

前回に続き、今回もウェットコンディションでのトレーニングとなりましたが、北村は難しい路面状況の中でも落ち着いた走りを見せ、ウェットでのドライビングは着実に成熟してきています。タイヤマネジメントや状況判断にも成長が感じられ、これまで積み重ねてきた経験が走りに表れ始めています。現在は成長期を迎え、身長も急激に伸び始めています。ドライビングポジションや身体の使い方にも変化が求められる時期ではありますが、身体の成長とともにドライビング技術もさらにレベルアップしてくれることを期待しています。

Shotaro - TOYODA (15) Maishima Best Time 44.664

素晴らしい走りを見せた豊田。講師との比較でもほとんどタイム差がなく、高いポテンシャルを証明しました。現状の課題も明確となり、本人も改善点を理解しています。高い基礎力を武器に、細かな精度を磨きながら、さらなる高みを目指してほしいです。

Kotaro - SAWA (12) Maishima Best Time 45.387

2番手タイムを記録した最年少の澤。前回のクラッシュから精神面への影響を心配していましたが、その様子は一切見られず、積極的な走りで速さを見せました。シフトミスが目立つ場面もありましたが、改善できればさらにタイムアップが期待できます。まずは基礎を確実なものとし、安定して速さを発揮できるドライバーへ成長してもらいたいです。

Konosuke - WADA (14) Maishima Best Time 46.060

ハイスピードからのブレーキングが格段に向上した和田。前回から着実な成長を見せましたが、澤同様にシフトミスが目立つ場面もありました。1周を上手く求められれば好タイムが期待できるため、基礎操作の精度をさらに磨き、次回は今回の課題を改善した走りを見せてもらいたいです。

Yamato - ISHIKAWA (13) Maishima Best Time 49.465

少しずつではありますが、着実な成長を見せた石川。前回苦戦していた発進も改善され、最後のアタックでは4名の中で唯一ラップタイムを更新しました。まだ積極性やスピードには課題が残りますが、一歩ずつ成長を積み重ね、自信を持って速さを追求してもらいたいです。





Junior Drive
Shiraiishi Racing School



舞洲スポーツアイランド



GARAGE38
Luce ed ombra

FTK corporation



PAINT BY
O·N·O.inc

III River inc.



Junior Drive
Shiraiishi Racing School

